

HEPHAIST

それは価値を創造する個性ある集団です。

第48期 報告書

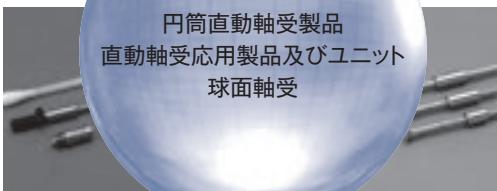
2009年4月1日~2010年3月31日



当社は、1962年（昭和37年）の創業以来、リニアモーションベアリングの専門メーカーとして、常に新しいテクノロジーを追求し、多様化するニーズに応えるべき技術力と創造力により高品質・高付加価値製品を提供してまいりました。これからも長年蓄積した固有技術を活かし、事業の柱となるリニアベアリングなどのベアリング事業、ポジショニングステージなどのシステム製品事業及び超精密加工の部品加工事業の3つの事業領域で企業価値の拡大を目指してまいります。

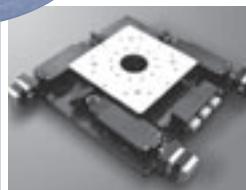
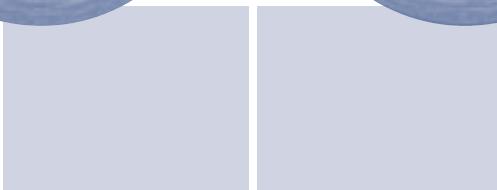
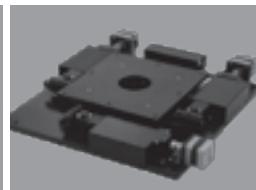
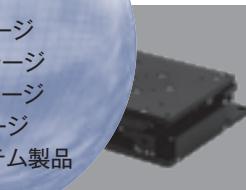
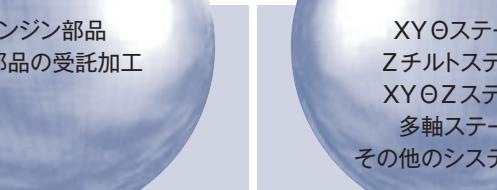
ベアリング事業

円筒直動軸受製品
直動軸受応用製品及びユニット
球面軸受



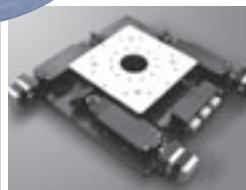
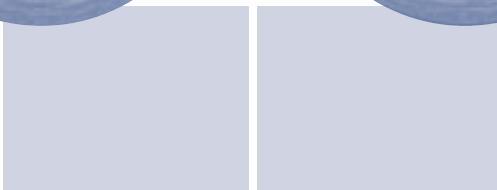
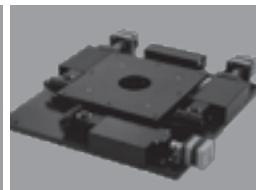
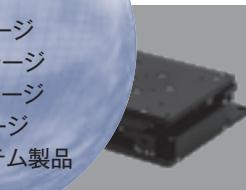
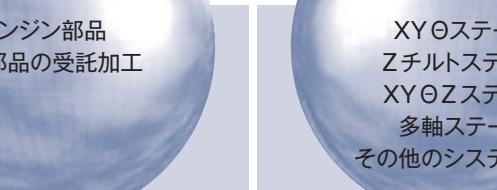
部品加工事業

エンジン部品
精密部品の受託加工



システム製品事業

XYθステージ
Zチルトステージ
XYθZステージ
多軸ステージ
その他のシステム製品



目次

事業概要	1	トピックス	5
株主・投資家の皆様へ	2	株式の状況	6
財務情報	3	会社の概要	6



株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長 尾崎浩太

Message

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。当社第48期報告書をお届けするにあたり、平素のご支援を深く感謝し、ご挨拶申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、期初は未だリーマンショックによる世界的不況の渦中において、どん底状態でスタートいたしました。期後半からは中国をはじめとする新興国を中心として世界経済が回復基調となってきたことに伴い、景気は緩やかながら漸く回復の兆しが見られてまいりました。しかし失業率が高水準に留まっている等本格的な景気回復には程遠く、全般的には厳しい状況で推移いたしました。

このような国内経済の厳しい状況の中で、当社を取り巻く経営環境も終始極めて厳しい状況にありましたが、売上・利益の改善を図るべく、コスト削減を徹底的に推進する一方、自社の強みと顧客ニーズの接点を探す営業活動による新製品の開発投入、及び既存製品の性能改良や生産性の向上による付加価値向上に懸命に取り組んでまいりました。

しかしながら、自動車・電機をはじめとする幅広い業界における設備投資は依然として低調に推移し売上高は1,057,057千円(前年同期比43.3%減)となりました。また、損益面につきましても、原価低減と固定費削減などの取り組み効果があったものの売上減少による落ち込みを補えず、経常損失81,588千円(前年同期は経常利益89,771千円)となり、当期純損失は55,871千円(前年同期は当期純利益11,192千円)となりました。

品目別の売上状況につきましては、主力製品のリアベアリングは、各種産業用機械メーカー等の設備投資の抑制が徐々に緩和され受注は回復傾向にはあるものの、期を通して極めて低調に推移し、売上高は624,676千円(前年同期比46.0%減)となりました。

エンジンパーツにつきましては、ホンダF1の撤退によりレース用エンジン部品の受注が大幅に減少し、売上高は157,150千円(同69.6%減)となりました。

ポジショニングステージにつきましては、電子部品業界の市況回復による好調な受注に加えて、電波遠望鏡アンテナ調整用アクチュエータの特注があったことにより、売上高は275,231千円(同44.2%増)となりました。

次期の見通しにつきましては、国内経済は、世界的な不況状態から脱して徐々に回復傾向が見られるものの、中国等の新興国への輸出に依存しているところがあり先行きは不透明な状況にあります。産業用機械、電子部品業界及び自動車関連業界等当社の主要市場についても同様の環境にあり、当社の事業環境は引き続き厳しい状況で推移してゆくものと予想されます。

従いまして、次期の売上高につきましては、1,287,724千円(前年同期比21.8%増)となる見込みであります。

また、利益面につきましては、固定費、変動費の徹底的な削減を推進することにより、黒字を確保する見通しであります。

当社の主要市場である産業用機械、電子部品業界及び自動車関連業界を含めて、国内経済は総じて不況状態から脱して徐々に回復傾向が見られるものの、先行きは不透明な状況にあり引き続き厳しい状況で推移してゆくものと思われまます。

当社は、このような厳しい事業環境の中で、受注確保を第一の課題と認識し、顧客ニーズの満足度向上のため、営業・技術・製造の三位一体体制の更なる強化による顧客対応力の向上、Q(品質)C(コスト)D(納期)の追求による製品力の向上、固定費、変動費の削減などを強力に推し進め、業績の早期回復に努めてまいります。

重点方針は以下のとおりであります。

- ① 顧客ニーズに適合したリアベアリング応用製品の開発
- ② 他社との共同開発による自社単独では不可能な製品の開発
- ③ QC活動による品質向上と不良品流出の未然防止
- ④ 生産性向上による製造コストの大幅削減

なお、当事業年度の配当金につきましては、厳しい経営環境を受けて当期純損失を計上したことから、誠に遺憾ながら、期末配当金を無配とさせていただきます。

株主・投資家の皆様には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月



貸借対照表

単位:千円

科目	48期 平成22年3月31日	47期 平成21年3月31日
資産の部		
流動資産 ①	1,675,654	1,817,716
現金及び預金	679,236	968,733
受取手形及び売掛金	603,059	446,347
製品	19,009	7,677
仕掛品	206,999	231,892
原材料	121,973	137,369
繰延税金資産	30,560	21,704
その他	15,987	4,860
貸倒引当金	△1,173	△868
固定資産 ②	2,318,687	2,406,314
有形固定資産	2,156,370	2,272,004
建物及び構築物	916,812	979,944
機械装置及び車両運搬具	149,430	193,205
工具、器具及び備品	26,622	35,349
土地	1,063,504	1,063,504
無形固定資産	2,201	3,438
投資その他の資産	160,115	130,870
投資有価証券	5,499	3,998
繰延税金資産	130,863	102,889
その他	33,543	30,151
貸倒引当金	△9,790	△6,168
資産合計	3,994,342	4,224,030

科目	48期 平成22年3月31日	47期 平成21年3月31日
負債の部		
流動負債 ③	438,090	418,368
支払手形及び買掛金	190,799	153,744
1年以内返済予定長期借入金	200,952	203,757
未払法人税等	—	4,000
その他	46,339	56,867
固定負債 ④	695,959	884,136
長期借入金	407,911	608,863
退職給付引当金	38,569	34,753
役員退職慰労引当金	247,941	238,760
長期リース資産減損勘定	1,537	1,759
負債合計	1,134,050	1,302,505
純資産の部		
株主資本	2,859,409	2,921,525
資本金	717,495	717,495
資本剰余金	664,455	664,455
利益剰余金	1,477,459	1,539,575
評価・換算差額等	882	—
その他有価証券評価差額金	882	—
純資産合計	2,860,291	2,921,525
負債純資産合計	3,994,342	4,224,030

貸借対照表のポイント

①流動資産

現金及び預金は、主に銀行借入の返済により減少しております。

受取手形及び売掛金は、第4四半期の売上が前年同期比で大幅増になったことにより増加しております。

②固定資産

有形固定資産は、設備投資の抑制により減少しております。

投資等は、繰延税金資産により増加しております。

③流動負債

支払手形及び買掛金は、第4四半期の売上増に伴い仕入等が増加したことにより増加しております。

④固定負債

長期借入金は、約定返済をすすめ減少しております。

損益計算書

単位:千円

科目	48期	47期
	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで
売上高	1,057,057	1,863,847
売上原価	738,054	1,256,463
売上総利益	319,003	607,384
販売費及び一般管理費①	413,103	514,569
営業利益又は営業損失(△)	△94,100	92,814
営業外収益②	32,452	2,501
営業外費用③	19,940	5,544
経常利益又は経常損失(△)	△81,588	89,771
特別利益	2,160	—
特別損失	4,510	48,987
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△83,938	40,783
法人税、住民税及び事業税	3,364	29,540
過年度法人税等	6,000	—
法人税等調整額	△37,431	50
当期純利益又は当期純損失(△)	△55,871	11,192

キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	48期	47期
	(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)	(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー①	△66,784	265,024
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△212,485	△48,987
財務活動によるキャッシュ・フロー③	△210,232	546,791
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△489,501	762,828
現金及び現金同等物の期首残高	912,507	149,678
現金及び現金同等物の期末残高	423,005	912,507

損益計算書のポイント

- 販売費及び一般管理費は、リストラ効果、経費削減の徹底及び研究開発費の抑制により減少しております。
- 営業外収益は、雇用調整助成金収入により増加しております。
- 営業外費用は、前期の増加借入金により支払利息が増加しております。

キャッシュ・フロー計算書のポイント

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加等により資金が減少しております。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入等により資金が減少しております。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済により資金が減少しております。

株主資本等変動計算書のポイント

純資産の減少は、利益剰余金の減少によるものです。

株主資本等変動計算書

単位:千円

科目	48期	47期
	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで
株主資本		
資本金		
前期末残高	717,495	717,495
当期変動額合計	—	—
当期末残高	717,495	717,495
資本剰余金		
前期末残高	664,455	664,455
当期変動額合計	—	—
当期末残高	664,455	664,455
利益剰余金		
前期末残高	1,539,575	1,553,363
当期変動額合計	△62,116	△13,787
当期末残高	1,477,459	1,539,575
株主資本合計		
前期末残高	2,921,525	2,935,313
当期変動額合計	△62,116	△13,787
当期末残高	2,859,409	2,921,525
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	—	△2,155
当期変動額合計	882	2,155
当期末残高	882	—
評価・換算差額等合計		
前期末残高	—	△2,155
当期変動額合計	882	2,155
当期末残高	882	—
純資産合計		
前期末残高	2,921,525	2,933,157
当期変動額合計	△61,233	△11,631
当期末残高	2,860,291	2,921,525

新製品 回転ベアリング一体型 ボールスプラインユニット

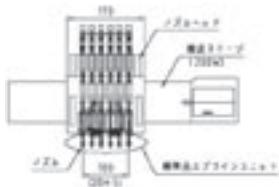
ヘッド先端狭ピッチ化スプライン開発

新製品「回転ベアリング一体型ボールスプラインユニット」は、チップマウンター等のノズルヘッド向けに狭ピッチ化可能なスプライン（回転動力を伝達できる直動ベアリング）となっております。6ヘッドを並べた場合（下図）ほぼ6センチメートル幅に収められます。

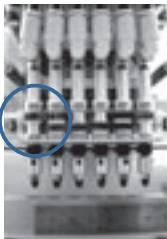
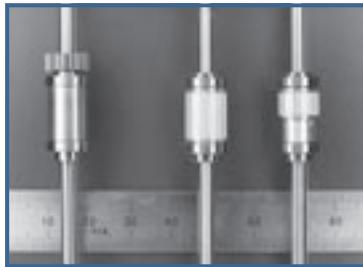
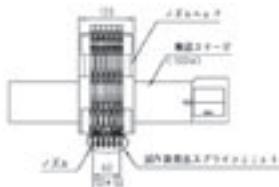
回転ベアリング部分の内輪をなくし、スプラインの外筒部にボール受溝を直接刻むことにより、回転ベアリングの直径を10ミリメートルと狭くでき、ヘッド先端同士の距離を12ミリメートルと狭ピッチ化しました。中心軸径は4ミリメートルとなります。

ヘッド部の小型化により移動距離が少なくて済むため、ピッチ間隔が20ミリメートルの場合と比較して、作業効率が従来の1.5倍以上向上し、更に軽量化による効果として、消費電力の低減にも貢献できます。有限直動と、無限直動の2タイプを用意しました。

従来のノズルヘッド例



当社のスプラインユニット使用例



適用例：電子部品・電子デバイス実装装置のノズルヘッド小型・高精度化

新製品 ミニチュアボールねじスプライン (BSSP)

ボールねじメーカーとボールスプラインメーカーによる ハイブリット、コンパクト、軽量化を追求したコラボ商品

新製品「ミニチュアボールねじスプライン(BSSP)」は、当社とボールねじメーカーとのコラボ商品で、ハイブリットかつコンパクト、及び軽量化を追求しております。特長としては、1つの製品で直動(Z)、回転(θ)、吸着が可能な複合商品となっており、更に、小径ボールねじと小径ボールスプラインのオーバーラップによる究極のコンパクト化を実現しております。用途としては、Pick & Placeやマウンター等のコンパクト、かつ、軽量化を目的とした使用に適しております。



セパレートタイプ

ボールねじとボールスプラインを同一軸上に加工した複合製品です。



オーバーラップタイプ

ボールねじとボールスプラインを同一箇所に設けるとコンパクト、かつ、長ストローク化が可能となります。



BSSPオーバーラップタイプ

オーバーラップタイプを適用することで、長ストロークを確保し、かつコンパクト設計を実現しています。小型スカルロボットの先端部ユニットなどに最適です。

BSSPオーバーラップタイプ

48th 株式の状況 Stock Information

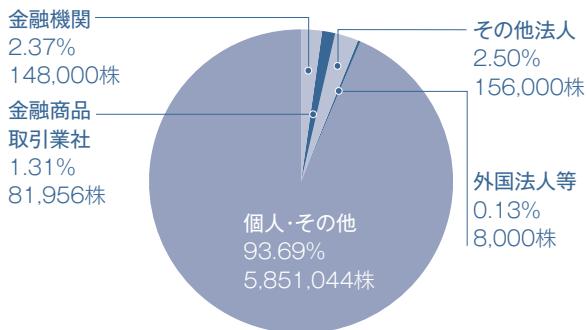
株式の状況 (2010年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数……………18,720,000株
- 発行済株式の総数……………6,245,000株

大株主 (2010年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
尾崎 久壽彌	1,429	22.88
尾崎 浩太	810	12.98
尾崎 文彦	708	11.34
小泉 秀樹	144	2.30
日本生命保険相互会社	100	1.60
夏 恒	89	1.42
土田 浩司	76	1.21
ヒーハイト精工社員持株会	72	1.15
松山 史朗	70	1.12
山本 泰	57	0.91

所有者別株式数 (2010年3月31日現在)



48th 会社の概要 Corporate Data

会社の概要 (2010年3月31日現在)

- 社名 ヒーハイト精工株式会社
- 本社 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
- 埼玉工場 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
[敷地面積16,677m² 建物面積7,589m²]
TEL 049-273-7000(代表)
FAX 049-273-7001
- 秋田工場 〒010-1653
秋田県秋田市豊岩小山字下田454番地
(豊岩工業団地内)
[敷地面積36,292m² 建物面積4,525m²]
TEL 018-828-0111
FAX 018-828-2231
- 設立 昭和37年7月19日
- 資本金 717,495,000円
- 従業員数 60人

役員 (2010年6月28日現在)

取締役会長	尾崎 久壽彌
代表取締役社長	尾崎 浩太
専務取締役	尾崎 文彦
取締役	柴田 幸子
常勤監査役	済木 條平
監査役	富岡 昭
監査役	北川 尚

執行役員 (2010年7月1日予定)

執行役員	菜花 有三
執行役員	佐々木 宏行

※業務執行機能を高め経営の迅速化及び効率化を図り、組織運営の活性化を推進するとともに次世代への経営の移行を見据え、執行役員制度を導入いたします。



<http://www.hephaist.co.jp/>

株主メモ

■ 事業年度	4月1日～翌年3月31日
■ 期末配当金受領株主確定日	3月31日(中間配当を行う場合、毎年9月30日)
■ 定時株主総会	毎年6月
■ 株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
■ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
■ 同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
■ 電話	0120-232-711(フリーダイヤル)
■ 上場証券取引所	大阪証券取引所(ジャスダック市場)
■ 公告の方法	電子公告の方法により行う。
■ 公告掲載URL	http://www.hephaist.co.jp

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

※本誌には、ヒーハイト精工の将来に関連する記述があります。この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれていることにご留意ください。

ヒーハイト精工株式会社

JASDAQ

証券コード6433